

あなたの職場でも公務災害の防止に取り組んでみませんか

公務災害でよく聞かれる会話

公務災害は何年も起きていないし、我々のような事務職場では起きないよ。



皆、一所懸命に仕事をしているのだから、ある程度、災害が起きるのは仕方がないよ。それに、実際に事故が起きたら公務災害で何とかしてもらえよ。

本当にそうでしょうか。実際に事故が起きてから、「しまった」と後悔する場合があります。



元気でこそ、いい仕事ができます。

- ・ 公務災害は、特別な人や職種が起こすものではなく、誰にも起こるものです。
- ・ また、特別な場所で起こるものではなく、庁舎や学校の階段や通路、執務室内などの身近なところでもよく発生しています。
- ・ さらに、階段での転倒や不安定な踏み台からの転落で、骨折などの重症を負うケースが多く見られます。
- ・ 公務災害が起きれば、本人はもとより家族、上司・同僚など多くの人を巻き込むこととなります。
- ・ 公務災害の発生は、事故を起こした個人の問題ではないということです。任命権者や所属として真剣に対応すべき問題です。



では、何をすればいいのでしょうか。

できることから、少しずつでも進めていきましょう。例を示すと、

ステップ1

- 職場の安全衛生体制を点検し、充実させる
- 職場巡視や安全点検を充実させる

→ 形式的なものになり、マンネリ化していませんか。

ステップ2

- 実際に公務災害が発生したら、必ずその発生原因や防止策を検討する。
- 災害の発生がない職場では、他の職場で発生した事例をもとに点検してみる。

→ 発生原因を個人のミスで終わらせていませんか。

組織として幅広い観点から発生原因とその対策を検討することが重要です。

ステップ3

- 安全教育を充実させる
- 公務災害には至っていないが、ヒヤリとしたり、ハット事例（ヒヤリハット事例）を収集し、検討する。

→ ヒヤリハット事例をLANの共有フォルダに自由に投稿できる環境を整えているところがあります。投稿には何らかの返信をすることが大切で、そうしないと投稿者がいなくなります。

